夢の盗汗

13
1963
36

36

[redacted]

荒木

近定

序

勝己者必悪故其長伐短
と指ハ小人乃習也不倭合我今家
國より二十里の波濤と隔山家に住居
寂莫として猿狙を友とし猿のさわふ
猿とされん事伐鬼しいえども彼一長

14

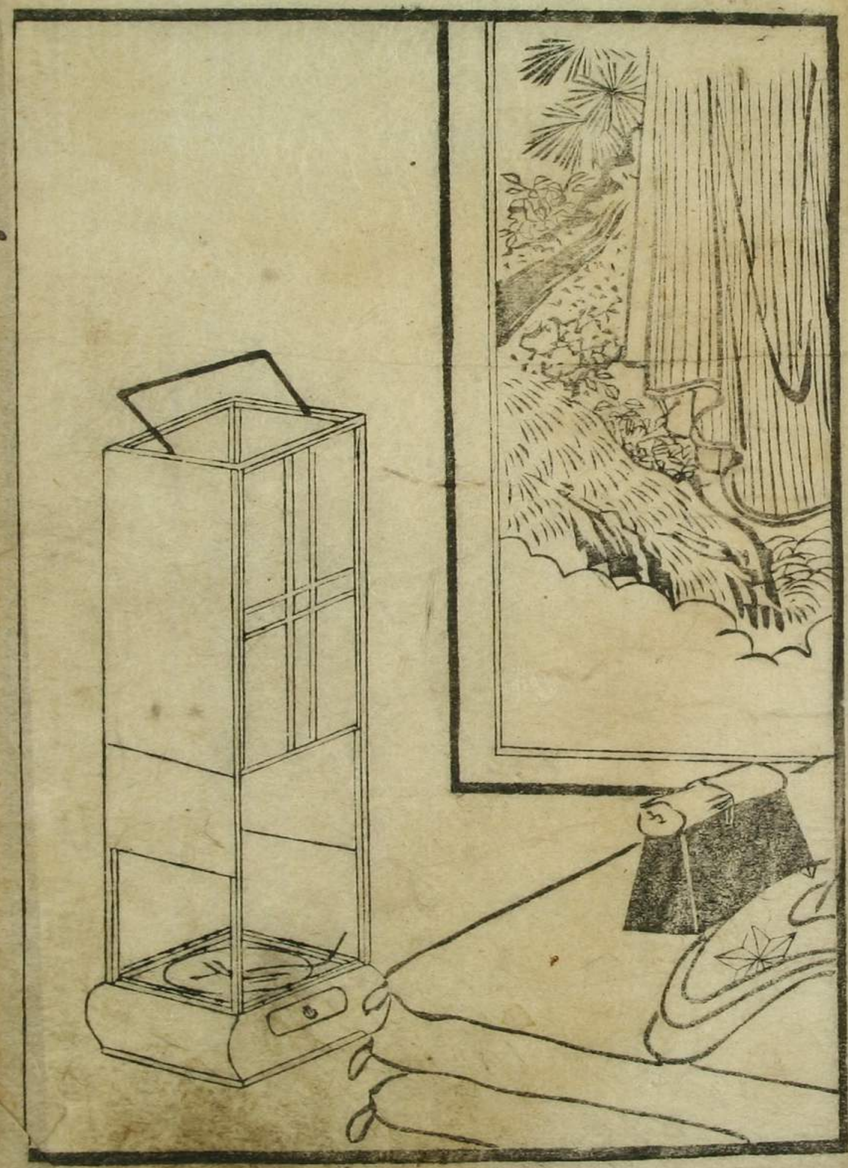
屋の使法を常ハ四國紙ばりてさん猿と
なるふ況三ヶ月星霜を經る山家の
れわくとやさ枝び猿が似るれまと
三毛の多きゆへみや年く書肆乃
小冊紙清ふと頃うまども錯簡魚
魯駑多ゆを懶而綽まども固請く

不置校合の行届ぞ深紙筆屋
ゆ聲をゆ〳〵ゆ而已

酉九
初春

梅暮里谷峩述

ヘ13
1963
36



目録

○第一回　爽約とせりて楽會成約と
○第二回　謀とうけて密書成集ふ
○第三回　夢にうぞ〳〵て筐成送る
○第四回　意とさぐりて艱成晴と

終

夢之盗汗

梅暮里谷峨著

○第一回

大江戸の三岸から四五町横曲深町の朝市小後程錦繡より襤褸る布子まで左右ふ〳〵騎馬の男士も眼とよろこ〳〵江戸見物の田舎者由まず膳の決〳〵えびやぢ家木軒をなら〳〵ぶる古道具の男中に貴と言名ふまろう〳〵人一ち〳〵して古手屋八島平清が見世小へ拉びも波世も同じ仲間の

乾七 旦那さまのを賞て下さりやゝ

てゝちゞひく りんセ ハテこまりさまの孫とく ハゝ糸

そんなにのうけさゞずとアテもかさろせんかこゝ

よお茶ばくあ りんセ はゝ大ゝぢまさゝゆりナゼ見

世の前らく ハゝ糸 ゞ物の仕巴のまろで彩いつさ

のさ気合ゝゝだ抑もゝろひ性をもれくく

りんセ おゝくさんとそ武丁目が坪ゝゝろひ世界ざ

うけさゞゝろうい ハゝ糸 ゞゞしてきいさ りんセ

そろそやゝ地のこちゝ地さ ハゝ糸 まゞゆりく

ぱゝ袋ぶ茶筒つけてゝれで拵事とゝとゝ

ひさゝくゝりめまでさせてゝ武ゝろゞある りんセ

今さんゝ ハゝ糸 今ゝゝれくゝゝがゞふゞるおゞつろ

稼くものよ りんセ よくゝせんゝく武さてくれ ハゝ糸

さ稼ゞおれゝろゝとゆゝろさゝゝだゝゝかと

ゝ意傷でゝくく拵をゝろていゝゝと十まゝ中

よ一度つさゝゝれくゝ りんセ ゝゝゝもゝさてこの角

小へいく家が稼く　りんせ　さんざあまへ紙いく　蔓のわうの
中ぶくろの紙ここら　りんせ　あるやうな十とふる稼く　りんせ　黄
そばの新のかをりてな表町の大屋の娘とふ
かいよ　りんせ　ほんかあんらいたのこうぶへぶん
六十かくの代物ざ引れ乾目そこ八十かくこの
そうだそ物ぢやこしてハいくれぬ　りんせ　ナビ　りんせ　福
神屋の流を一トは買ひ〳〵そくさ長ふこて
おくんふさうやしート　りんせ　今の世

一きやそうまりてやろう　りんせ　そうやあ夢て
世おくんあさうやあぶ　りんせ　咄をつくまぎん
にかりてそづしんあんぜ　りんせ　あんざへきろこうた
やと　りんせ　そうるさい男ざまけてやれ　りんせ　ちやうこう音

○第二回

雛妓買ハ樓上の鶯とゝぎれば打絃の響とゆ
て情をうこうすのく我中涙〳〵〳〵〳〵〳〵音
仕るものあハ油紙つぐ考案　りんせ　コヱ　ちやうどんおね

らんぶ[ざ]にいさもろさん[平介]今料[しろと]ぢさんと一ぶに
ちゃうなさうさうけ[客元朱]妻琴[まつこと]さんにいさうねと
ぬしてら紙さらさうの[まつこと]さうのすーいおさぶ客[きゃく]人
ださんぢんぢおんせう[元朱]なんせう成大[かたさぶ]盗でおく
にてあるて一ッ使ぎや[つまど]アレサワるひいさぶーとうんと
かこぶーひささよ[元朱]それでもおのあのつ[うと]で
きんこれぢりの成[はなど]アレサいやぢよ[元朱]いやぢの
もーなる酒[さけ]の者[さんま]よいこの[つまど]アーとりあんー

[元朱]よーのきせうもちワるおさぶおらいさうぢが[つまど]
ちりいせんよ[ままはぢ]ぢさんせん久[きゅうと]だちてゐと
ぬさあんー[氣朱]さらいはあさ火成入ておさーやさ、
とうぶぢこ成コリヤ火人が祈ろうあをーざ[つまど]アこれかど
ぢんとのとおろさ善炎料[ふたこと]ぢんとろてさる[はなど]うろぢんあん[元朱]マる
おるうんぢやや起ぢアあるやん[はなま琴]アレサよおぢんとうあ[元朱]
武士[ぜ]ハかさふぢぜんとあん[はなま琴]ぢさんにこアよく来[き]ま
うんかさろさ行[んど]のおちえふあとはんでんたち[元朱]

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん

八郎兵がおりえのとけくなんでくるそうぞ
あやうどきくと拍子木も大氣がりめで私を
呼よびようとしてくいふすもるし殘さうろう
ふら玄庵らを初くどでしたらようらうそう
ぶんさそんが事成さぶいやしたときんさらば
八ふ兵がはういふようすちんでもさもく
やうもぶやねくしうまーぐらいあの
坊ちんも酒んぶらでもいろうさのありがられ

ぶおらんふあいていうもとも公のもれるやうにし
てやらうとうろてきやしたあんもめんとむうて
いうめくおるすもあるりんぶうう作もりてしたを
んあよかれりけどのねくをろ成りふやうろん
ようにそそうらうやんうもふ[ゴ]八郎兵さんと云
ぶきんもぶ成ごろのふあんでぶんさものぶ成[ゴ]を
んふふ西ふらとつまてくこんのんさもんぶまうさ
ぶんーの事ふまんぶ一方ケうれれんけあや

なるほどかの[illegible]ちうの[illegible]

八さんいやうにこのごろの客人なりせ侍よ

[illegible]あんした拙者さんぐさちすぐるあんさるねるハ

さんのりうにうでもされんとなる

おかめだうのきさんでもかんじんのはならんがふせよ

ちでもきかそつはうさんのふせうちのこと

ざんせんをしてハさんゆへ拙者さんとゝびうんが

んでん門前のやへゆとゝふせんとふ

[illegible]ちうのたのしみ金でんワうれへ

ゝをあとで拙者だけりやうこひ使ゞ

拙者ちうとゝ一ぱいさらくやつてくんなゞへ

ちんちゝ[illegible]ゝいさぬ出ておとうさん

拙者ちうとゝ[illegible]ひそんさまゞふかまれ

ものそよ

拙者ちうとゝ[illegible]ゝみやうれ拙者のこ

つてゝゝひせうとゝいさぬおちよ

ゝとお世話うゞゝちくゝもし

てをうんかん　あんのちよりをてあけく
ちよへおかんし　ト申く　利と　モシヤ　はまとさんが
いつをもちとくいうんちよ　元本　はんうう　利と　か
んでぶんといつとく　ひまと　あんかてやばいつあんを
ゆとうとと　元本　うんぶうやちや明ちでんうをちぶう
すてぐうちんも分うぶ　さもぬくとつよ
にのトくうこう　行　春うくおりて分どくうひ
とすう　あと　ヨリ　ておうんあへおあんてく

十

ある夫し　元本　うんをうこよちをうあんでもぬ
さちのい虎ちまうをたきちくちをちう　図　陸
拾ちしうう自ちへこよりがようふざんを　元本　ちく
ちよんをちうくとつく　清ちと　それでもだうら
ちいうんかこちいやや　元本　うんなくく夫ちよ姫ふ
春うこ氣ぶの　ぼちと　そうまやうさんちんしど
おうくさんも拾ちをうさんぐうの和でおいくあん
してものをかうんひとうふ移せのふちひちよ

ね 元禄 いとねんけいてんまるしゝ[illegible]の
市味[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
らゝひゝゝつゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てゝゝゝ

をまんぢゅうどいこんや一家ごとぐさしません
なんぞもいまんものは城下さうゆうとらつてく
ア[illegible]や[illegible]あい明ト[illegible]だまつていやよこくそこ
いろうトとろあ[illegible]ぐこんやのあんまろ口をさてく
こひまこうんしこまこうでしこ麻あんしこ[illegible]
[illegible]みくこし[illegible]ぬこく

○第三回

廓の日盡い世者のうるさい眼まこぐ[illegible]

の繁昌にきこえ仲の町よ男きれかけまこば場
屋所よ芸者衆の[illegible]たこや行かくのくび
こうこれよきこれがそこ斗化粧さ乗ちくのづる女
郎屋の暖簾捲上て家和をかくせば異と浸
んと手酒臣て間夫をあつまと二階の倡
妓短き紙の国扇て[illegible]こひうぐ[illegible]
妻琴さんの八さんハ[illegible]でるんせんぬ[illegible]
アイサぎうこひこうこ[illegible]をやつてこを遥

ゆうとこしひせんとやくそくをかけるやうひ
せんくれどいつを人まだろ氣ぢまを人とよ
ろくごこのもゆてるみとうとこすぎさらいで
ざんとそのくをとこさどもいこちつかの人の
とかくさびは逃てのとうこいはとねへおかの人さんい
ぢ拉手さんのうりでまちらあんとのりへ
きうんせうらハ昂ぢ和さんざきておらんあん
せどいつ拉さんとちりどらをてハ昂ぢ和

さんの郭へぶふのんせうこと見ひあんとそ家のうえ
ぢふひこうまりつさまをのとちうふんを通り
久ーくおいたのんーたようつてかんの家ぢ
つ通つてきんてようびいちとらくるかすこもいれ
どとーてのの科ぢさんが例ひ家ぢ戒
いつとゆへふみをやりひちくぢふどーくらようう
ざんやうりぬかとうさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢

[こと]その後八酒蔵にて[ぎん]でざんとねすこんれおよ
酒をなん〜[つまと]なりまきん〜[こと]よりこん
をおきてなん〜よ
今宵きこと[きや]ハ[ちと]ふたりと和と同居のより
こともとぶハこと和てごしれのうだすんで
おれもとぶまわり〜廊下のこころ彩
道のこと[ぎ]ハ[ちと]ぶくわるしんへとこと[こと]なんざ
へとづる[野道]おんこんのうれしぐんこんこの

がわり酒をよ[つと]ひんぐんざこ〜いこやくい
ひすん〜なん[ちん]杉[ふと]幸さんがきみころまこと
[ふうと][ちん]空ものしぶふもなころまこと
あ〜こと中こと杉[ふと]幸ハ茶[ちや]があんこ
表座敷へ入[ちと]幸ハ[ちと]〜
つて[ひ]ちこと今[ぎ]ざいこのざこ〜ぶうし
ちん[杉ちと幸]こうやア[のち]あまも同じ幸ざマアり〜
後よりうと吹[ふく]もあるぶあんこん夜ハ客

でつるひの[ま]ミアそうやアよりゑざんとぶあゑんさんゑ
ゆうぐう品川よりおとをんとものうゑ
[ゑと]ゑまゑゑんうゑとゑんゑゑゑぐ名でざんとゑいやゑゑゑさ
のゑう[ゑの]よゑゑゑゑゑに品川ゑおいでゑんとゑと
ゆでゑうてでざんとゑねゑ[つまと]何ゑもうゑもうちゑ
てゑゑいゑゑ[ゑの]ゑゑでざんゑゑ
品川よりおいでゑんとのゑゑ門ゑ同ゑまで
ゑゑたるゑんまゑいゑまとどゑんゑゑゑ参

のうちいつとゑゑゑゑゑひゑうねと沸これよう
八島系ゑがゑうんゑゑゑにつゑゑゑうくゑれ
[ま]さゑゑゑざんゑたらうねゑるくゑゑゑるゑく
はゑゑがゑうてゑゑいせんゑ一度もゑるゑゑゑゑ
今ゑゑでゑりゑゑゑたとのゑゑゑゑいゑんゑうゑは
てゑゑゑゑゑゑゑゑゑ[ゑ]ゑん夜の家八別條ゑ[ま]アイ
八島系ゑさんとゑゑ名のゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
うゑゑゑてきゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ろうつこ 図 ナゼ そのやうなるものといふんとう人 図 いえ
ねへでござるものご 図 何のいうまでもなげへいざん
せん 図 そういふこゝ様のてあくもたくさんあるら
ふいまこゝ今頃いぎよふこゝ成若は して
如ひハでんせねうとそんなるものとゝ 図 ふと 吸もむ
うく 吟 ねエ
図 如ひハせねうもつまこゝのゝ 図 ゆんざらでもぬ
へうういうまか 図 うんとでもおいくゝ人ゝ 図 ゝゝご

つけの
こゝろよくくうまこねへ人のゝもおれがやうに実が
ゆうやゝやうゝこへたまぶやぼうゝおこうさこゝぶ人
ふ鼠ハ種 図 人のゝ系もうあんせんでかせ
ぜのようなるものといひなんとおりへさんこそふ
川へおいでうんしてかゝ去年のまこ一度ゝあとよ
こうゝうんして ぜまこうゝといふものゝ仮青仮
もうん芋ん赤川もゝ赤ぎ赤ゝこと赤ゝおゝさ

あれらの女房衆と色事とをんしており
わくらしをんなをもちまどろさんしごとに
めさんのことぐらいいろてあるひとをも
をんなをもけさんしのようにに情のあるあい
ねんその金力でたいそうおいでをんせるこいと
まをもちまるにちがしてあるひとものと
そしてれめんさんの出をんと時分はよねぐて
ざんしたがまこころいろと病身にあるまいた

さてれもれらんさんゆへのことでざんをれをん
なこと我いてをんとをうんやまうざんと 注十二
人中ひもあんまりいてあるちくいろていや
国イヤヨ 注いやがるものをうあるをちくいるあ
矢ぐさ地色ぐつとをうを国 注誰がその相手と
我いまをうん 注淫ぐろてもいてるあこう
をとぐろてあるものをだるなるれとみし
くをていようあのてつくあの身れうんでんを

まくらの数のうち襟元より腰のうるま
いやな客がてきねんぐどまとものざくら
むりえん扱するねん【五】ばらばらんをこしん方
ちろでもうるうるあんぐれやうに人をごと
なんをとまアひさしぶりできるのんさうなの
つちの板子もきをせのんしたり私とてもつまる
を取ーもあるひとたちとんやさしく
いくなんーてもだちもあるひとうちあんん

にうるうるひあんとあるー義理由人おもいりんえん
実出しこおめよりけんと
【五】ちをいやぐよくく【九】ごまってきくちんーを
家出して取りよりけんと【拾】ナンノてあんぐつを生
しちくれりのうトちんうん家中ごーたの実
ハ多系いあるりまちあうーてもこあゆん
大きれいしぐきて涼飯もかまるまで義出
と多紙さくく田んやゆくまぐまを

小あまりあるうり内儀のあとゝさまの毒にゝひ
ゝをうりぐゝよりて 図 もしやあんざんとゝぐゝしひ
耳があるあゝまぐゝらねわいくゝあんゝ 八十二 ゝぐ
かにゝりうせコラほとうつぐゝいてさくゝられも
でやひゝりまゝねよをゝゝゝしてぐれぐゝうゝ
いゝもゝゝとべい 図 ゝゝゝゝ 鍛るものでも客人
の落合時もあゝうひとすゝゝゝゝゝゝゝゝと
ぐゝく 八 何もきゝやゝゝねまゝゝゝゝけいまゝ

やゝゝゝゝゝゝゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝ

めへさんをよくまつくれらひしておめへ
さんがきれんしてゝいきよらひとゝいつまで
どふもいつさんで結まつさ家人を突
出しておめへさんとよびやてゝ義理も立
ど内証のてめへもとゝひせんゝ気のど
くでざんとぶれめへさんとべさまとゝへア
ぞふもよびやゆつざんと八そのへ
とうんでゝれめをあてのとでかとつけ

ようさう九あよりゆりひまとかそのかう
外の世界ゝ面白ゝかへなんせうしもれ
めへさんのこゝろもせようんしといもれこゝろの
と一度ゝ目ぐさゝるゝ笠汗ぴつまうと
美でゝあつさう猿食〳〵
つまと ナゼ山よりなてゝ成ゝてよとゝしたのゝろ
そゝ気よりかうひとゝん十九つまと 夕紙のてのがゝまとへゝ
うね つまと どふでざんとゝれもゝいとゝめへがはとく

きたのうねうちをやくはすておきこゝへざんと
りしりかゝられでもさるとこゝ成ばくな
んとこゝろんやうきいさうねトいろく さとゝ
おねらんへ合の坊さんぶあへつまらへ〜さ

元禄

○第四回

倡家の万姫茶屋の灯へ客の光とあ〜こ〜
陽子ドン〜出し〜抱がうく まづ一ぢんに描へ参る

元禄

ちいらんハきやく〜人でなろてゐく

つまと

よく〜やく〜お出さんしれね

元禄

狂言とつまと

ゝゝそゝごさんのちいらんのこゝぶらつとちろもあく
とあつこゝろいこゝだやし乳あをくさのまえぶ〜ヤア名言

つまと

おつぐ〜〜 アレトあろう多人

元禄

モシへおいらんク多

出べ

も森徳枠よしてねてゐまひやし〜さ

つまと

アレ

あんこゝろそゝぐろれめへさんこゝそよくねるんし〜さ

つまと

その残 そゝやア情のあるこゝろぬぶんこゝね

元禄 そのくせ情のうち大根とろろ汁なぶらでいろ
そけどもやれアナ つまと おりくさんのよにまるロ
ばろうきゝ式〜うんとちつと浅草よりうん〜 元禄
浅草の新通さいつぐんまうく つまと おりんち
つと所でもおわぐんうてごろうまくしそ
うまゝ〜氣ぐまとんやう 元禄 ふさぐ人 重
アイ 元禄 ふさぐ〜はは 重 行 ぐ 迫 行 ぐるとせ
時やせう間遠うくきんつときやとあんどきき

んか つまと おりんんのあさだいそのことでいらんせんま
かよ〜いたとざあんを 元禄 コレハ けーかぬすのお
らあまうちの時まのちつとそんつこうきまだ
ざ〜見体よ少使でもまてまちやせ〜トハ仮正
つまと ちぢうやてうん今体の所う〜ゆるとれ
ぶらいうつよう〜ところ 平どり アイ うちいしたとで
土屋の廓がいさよう〜ちとでありゆ〜さ 仮まと
あんかとと式いうてよう〜よとし〜あんたう〜

あんやハおいぐ〳〵あんやうとん持よまちいたが
ちゝきれんとちゝいつそぐもつちゝざんす
さつ〳〵ておくんすん〳〵 [ハ十まき] さつ〳〵すんちゝと
かとうちをあんじらさつと
[ハ十表] お客がごぶりまちかゝこゝいまゝ中ちゝ裝
ぐしやくいまるちゝ〳〵
ちゝぶ〳〵ぶ〳〵せこまあり [つまこと] ちゝ〳〵すのあるかゝ
ぶしよのぶんちゝまおぎ赤〳〵おくんすんへこゝく
まつちこゝぐんぐんせん [ハ十表] ナゼハ まつてあり

ちゝと極形よまておけばく [九十七] ちゝのちゝうぶくきて
八さんへはまのこちゝさんがいろをまつてたらでえ
しれよくおいぐうえんしたねゝてけこく
しのへ孫ろ出ろうの [ハ十表] さんやもこよへ
ちゝのとちあてちゝ〳〵ひゝちきた [九十八] いく
むしぐんけへね [ハ十表] こんや一所よきてを
ぶあへのちゝちゝへぐまにでもちつてん
まるひちゝ [九十九] ナゼへ [ハ十表] 今にまちちゝなぁ

せん（ハ）（ハ）と（ハ）さんいつを酒（やれ）なごがうく
できひちそね（つまこと）（ママ）なんでざんそん（ナゼ）
おりん（ハ）さんざんそんおんつざん（つまこと）おんざろ
いつそこあまかつこひそそそ代いうんそそ
ね（ハ）（ハ）（ママ）おりん（ハ）ざきひてくんおそん（ひろ）
のだんのんまうう（ゆう）すづひ（ゆう）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）出てうとし
さていふ愛いよくあるものざとゆりんやさ（ま）
れそへおるもの成ひろいやしたと（ふ）（ふ）（ふ）（ふ）（ふ）（ふ）（ふ）を

ん是ぜそよりくの出ちく和由よおく似ているか
らりつてきそおうさてあんのごろく（ふろそそそそで）（つまこと）（ふ）
（ふろそそそそ）（つまこと）（ふ）ふてくそであんさくうて度くよ
びよあげ（ま）そそ由屋んじさんようそくあんせ
んであげくれそてあんあのやうなだくし
いそくそくんそそよそくしそんくんあそた
うがそそくいひちそあれどうさくく
い大ちさちを由んすんぞおちんさんのたくく

のあるこゝ氣がんでいさんせんとおくれとも
むこうく 祝儀 やアさんなあつの鈴こゝろも
に月とあざむく世家の灯まづ一ぢん
よさんだけしてざるたまんぢのり
こりほゝさまづくあるこ 力屋 うやれ
ゆくさんハ小ゝ和さんの連ゝ川ゝく 人風 ちん
ゆゝこんおこらくさんでさんちゝゝ 四まと
アこゝりざゝゝ新でよく味とわつきうん

しゝ称 祝儀 マアあろうく 浸ゝゝひでんな
けもどゝ行もさんなのいつけまて大よ遠
入さひおゝこ神ゝ延の一通ゝたいるうん
のようるねと笑ゝて浅茨の頭
ゆとぬいざゝかゝいつゝれい親もか
けもど世房もなゝ世ゝゝゝゝゝゝ子
いなるすたつさひとりで浮世ゝゝ
歎不喰貪樂のいたのゝゝかゝ地ゝひ

ついさる氣楽の乾七とうの中ろうの丸男
あるハアアーまづんじゆ中にいろかーこのいくた
てとガタくすのれエ〻うんとあせ上候いさ
つうぐせんせう 十三そのやーにたくん
でき物ようとうんとそのいさんせんとうこ
八ツ永 おきやアがれくやうんぐーでかくこ
とハ行く 九永 アアーいと庶もーせーまんさま
家でのことぐようぐでんせー 十二ろで

もつてうこと成いろてあまやアうくらア 九永
それまんまけのあることでさんをかう 九永
そのこと成いろそもうくらいかんを
さアよーまけてこらーおひしーか 八永
よくまけがけのうさーこう化ろあー
まれさといよそのさ 九永 そこまやアれう
(さんのいまんとこめーぐがそきとやア
うくのそれたちでまんそこへはまこ

とさんげとゝ[illegible]ゝ氣ぢうもまつ[illegible]さとゝ[illegible]人
[illegible] つちやつておいく れくんぐん
しいやあつさ[illegible]ゝ[illegible]おれて[illegible]ゝ
こやぢんをのてざんと[illegible]モ[illegible]わい
らんゝもむありげよいゝかさるゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝづくふあゝつてでゝ[illegible]ちやゝ[illegible]
うんざなこんさの[illegible]ゝ[illegible]でゝ[illegible]ゝ[illegible]
なあゝまれるゝのう[illegible]ナンノゝゝ[illegible]ゝとい

つてえゝ成ゝやゝもいゝこゝさおゝ
もぢやゝつゝしぢゝゝるものゝ
あんまゝ[illegible]ナンダメ[illegible]ハテ[illegible]氣山[illegible]
海ゝの天神さゝぬゝよゝのゝらゝ[illegible]出[illegible]
のわゝさ糊仮をゝうゝるゝよゝくゝて
ゝゝぢゝゝくゝつゝく男ざ[illegible]それでも
ゝんまゝわひゝんのゝゝろいゝさぢ[illegible]
さゝるものゝ[illegible]合ゝて[illegible]天満ゝの

とおもうんちゃうよりがれまんみることてらまる
ぬ〜たゞ宰ふ〜〜〜んてゐぬ小野い
て〜ゆがあるたゞ〜べ湯ゐるでゐ〜〜と
いまちゃんせゐ行いの梅と松ふたつよ割
てゐ〜〜〜と実〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
ちゃうつき希後不笑よなさんが
むテレ〜〜 ハ〜〜ナレメ 酒落ちゃうよりよりて
そのようゐるるひちゃるるきくもせろ

ねんよきつせんおもうふくも稼ん 元禄ホイ
ちゃ〜〜じゃと ハ〜〜 おゆんさんいちろ〜〜だ
ちゃろ〜〜ゆんぐなん〜〜ゐ 元禄ハイ〜〜 九〜〜
そう男ひつちゃゐんん〜〜ゐもむうでんさんせ
んぐちゃろ〜〜んさんつまもいゐんせうが蠢
ぬさんの乳ろ〜〜出ろ〜やろふ〜〜でも
ざんせんのさ 元禄アイサ ひつさ〜〜〜〜〜〜〜〜
ちゃろ〜〜るこ〜〜でざんさ〜〜〜〜〜と氣と

ゑ〳〵ちんせどにはまこゆきさんのむ
いきぜんさでしてゆ〳〵ゆきたやくさんの
たちかんせんよりおみこゝざんさるゑ〳〵を
さくゝしどもがさうどもうりいやう 孫系 ゆの
のうみよせゝ孫やをゑるゝつまこゝさんゆ
実〳〵とあゝゝして 孫 ゆきるけゝこゝもよゝ
孫人敵孫をゝたゝ今更毒の毒でごう
やん 脅をかゝをさたゝうびふこんやゝゆう

てゝんをせんゝ孫をかいらんざ 孫風 アイサそれ
ぶようゝざんをゝあゝちゝ人〳〵りかをがて〈〈 孫系 ざるれ
せうぐにゝゝゝゝたゝこのゝちいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ありてゝゝゝゝゝさんをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 孫系 ゆゝゝゝ
ゝゝふゝゝ孫をゝうん孫 孫系 ナニ人のゝん
たんのゝゝとゝゝふゝゝるゝのゝ 孫系 ゝゝゝゝ
ゝゝふんてかゝんゝんせゝゝ 孫系 ゝゝゝゝ
ゝちいゝゝゝゝ孫ゝゝてゝゝゝゝ孫
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つさてゆるのら[illegible]ひうんせん
ほりでそれでそのよりふれ狂言と
てきれうんとのうく[illegible]きとるむきて
ねのと郷人駿主のお手場おやあるる
ちくしうんをやりふいろちの樂屋さん
孫のをとひ色男でわくてもこ月や
三月むきとうぬうくうぬがりふるふと
ひあまとべ息の根のうくまるやとぶちの

ぬさア[illegible]とうもアうさとりせんとうとるとうく
ぬすくどもさ拭てもいくひいちんせん
ひさくとうんでもいやらくひこゆくぶんせん
どふぐおりくさんの手ゆあるいせんけ
れと氣樂さんとやくくりつくくがるんや
いうとてどんかやうとうきちんくくろう
何もとふくもうくとぐくあくよりること
ぎんやんりこくくの拵事さんのつまとこと

わんにぐんぐいとうたこさんのこ
とぐ〳〵おめさん城宮出〳〵てもうぐぬく
あるやア内和のあもとゆわのすんのこ
と
科ぢさんぐつとと〳〵おめさんをすぐさう
にあつてんつるひとわ〳〵もつてきとゆくわんの
中沢のあよ出つしたあぐぐざんを抱と
さんのまけもおとるし〳〵きしして知て
おいですん〳〵あぐ〳〵むりにふ〳〵城おつあ

あんと 小ぐつ来 抑とぐまつ〳〵ものとわ〳〵城
たまとこそこそけゆうちなきれ口とくぐ
んさうにおを葦が立戻らぐイ〳〵とまて融と
うせあうつてかぐんよ口城内 はまこと 手と〳〵
もとようするが会つぐざんとめく〳〵ぐく
よびよあげくしたもきうんせんでなと
内でゆつこさんとアくるしいならの
も案ものこへおさんなれこつるてゆこと

さんと呼めくといてまとこと云ん地の勇八料
戸さんでざんもとう〜かすんのらしとおめくさん
の物へりもあらうとあ彼のうくでぐ
もとうもおめくさんの仏のもとこいすよふよゆ
泊りて物をいもとうもうこうすうすうれて
さんのお出すんもとうもちんこうでうさうり
のもとうもれやうにしてこせもとこざんと
人ぐきうう物くとうてもれおこと

いうもとうのさ天へる地知る手前り
腹の名ぐもとうるぜ
こアもやうんぐ
屋八郎兵衛二世の妻さ
来ぐちぐんもとうさ
もこいせんれこんまこと成ちいた
ものとあんまこわや成てるりてきれち
れてん来もちぐらうもとのさ

てめんとをかあめつまとふせうして
そうはのりておくんあんしゝ　ハるゑ　ムゝ
そんれゝ同まをぎんゝもるぞよ　つまこと
ゝれでざんとうんはたことあるかりこつまやとづヒ
いてゝてざんとぐ夜昇のゝたゝれもまる
とさんが曳りはよゝめてかうせんまさ
氣よいゝざアとゝしゝもあんしゝつけはぎつき
ハるゑ　百姓の仕業ゝうゝれがゝてゝまるのゝん

くびとゆつことゝつかりうのくうゝ
あてざろぷゝとたゝこのゝうてゝ
ぶ　つまこと　うゝとゝうゝ　まゝ　ゝ　ゝ　ハるゑ　おりゝ
ゝ　ゝ　ゝ　

梅暮里谷峩著

傾城買二筋助道　色男始めてなれられ後に実あれ
ふ男始めふれられほに色解るなり

後篇　同廓之癖　はつきふてたらひこふく染実
をつくーあふ示をうきこるなり

三篇　同霞之裡　うれるたらひこふくいつふ往方れ
をするるほ出えば陽らるを出
こるなり

傾城買猫之巻　女房のうそをとすく方れら
ようそこるなり

白狐通　化物の女房の情らるを南方
の海をするなりろきなり

契情買書告鳥　つとめの[illegible]ありけるとき本なり

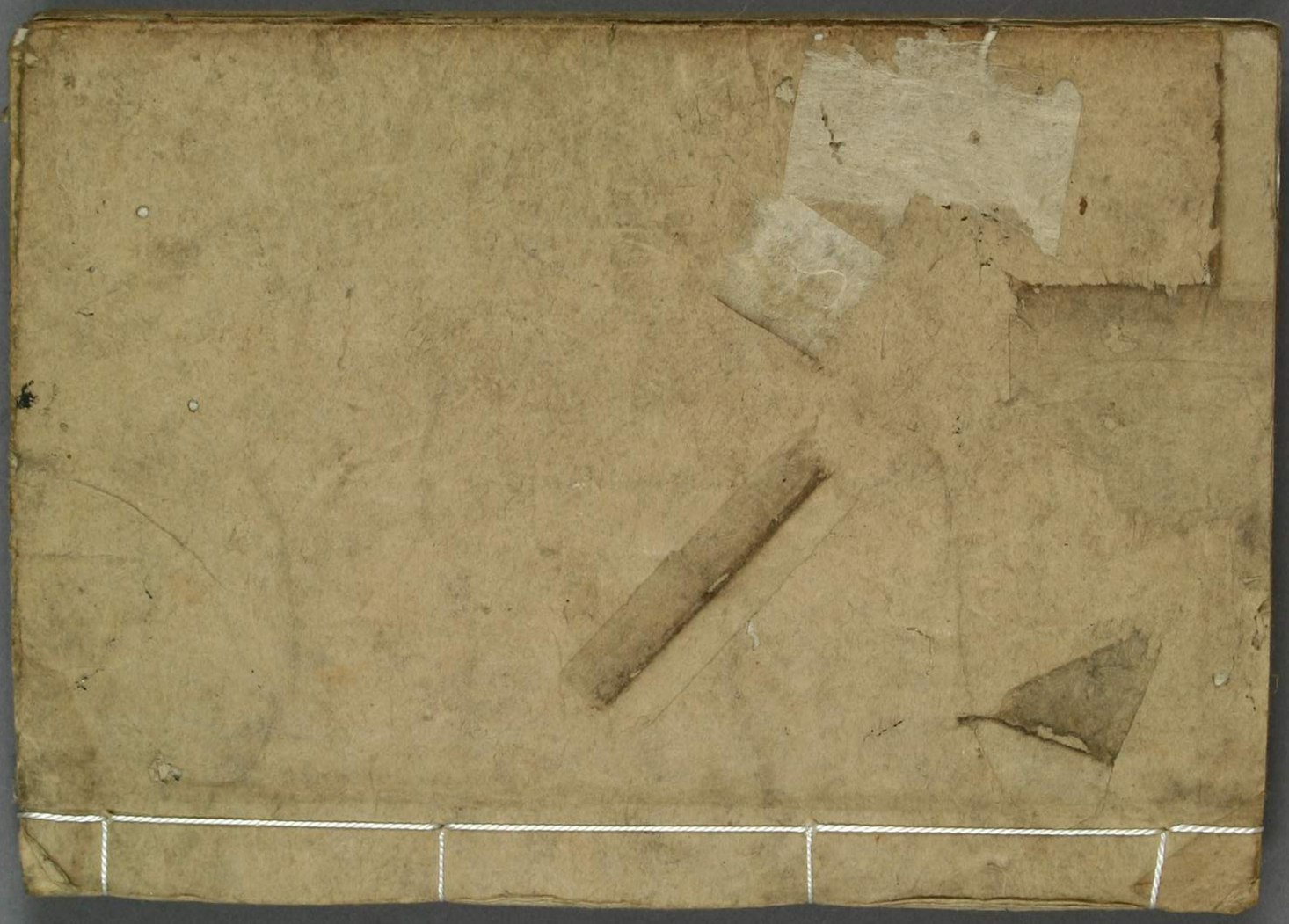
辛同二篇廊之篇　[illegible]

酉傾城買甲子夜話　甲子の歌[illegible]

新　契情買中夢之汙　[illegible]

版鶴園花撰帳　[illegible]

[illegible]

辛酉

享和元年